

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195900048		
法人名	北寿産業株式会社		
事業所名	グループホームわかな		
所在地	夕張市若菜8番地25		
自己評価作成日	平成29年8月30日	評価結果市町村受理日	平成30年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事へ積極的参加、協力 ・外出行事が多数 ・料理のおいしさ ・開放感のある建物 ・手厚い健康管理

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0195900048-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マルシェ研究所
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	平成29年12月7日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成28年9月に開設1年となる新しい事業所です。同場所にあったクリニックを改装し、間仕切りの少ない、広々とした共有空間が印象的な造りとなっています。1ユニット9人の利用者が時には喜怒哀楽をわかち合いながら、穏やかに共同生活を送っています。事業所の中での生活の充実だけでなく、地域に出掛けて交流する機会を大切にしています。コンサートや、さくらんぼ狩りなど、外出の機会が多く、利用者の気分転換になっています。利用者が毎日楽しみにしている食事は、季節感を取り入れたメニューを心がけています。また、外食や出前等も取り入れることで、利用者の好みや選択の楽しさを演出しています。また、事業所としてケアマネジャーの養成や他のグループホーム見学を行い、優れた取り組みを参考に職員の見学を取り入れながら実施の検討を行うなど、今後の運営についても計画的に取り組みを進めています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の見やすいところ数か所に理念を掲示している。また採用時研修の際に理念の説明とその配布	開設時に作成した運営理念を掲げています。事業所開設時や新任者の研修時に、理念の説明を行っています。理念を基に職員が教え合い協力して支援の向上につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会活動・商工会活動に積極的に参加している。またホーム行事にも来ていただいている。 町内会役員をしている。	地域の活動に積極的に参加し、近隣住民との交流の機会を設けています。地域に知ってもらえるよう、満室後も、内覧会など気軽に来訪してもらえるような企画を検討しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特にその実績はない。 事業所の力を活かした地域貢献というと、広い空き部屋があるのでいつでもそこを利用しただけのように地域の方には話している。また町内会イベントの際には敷地を駐車場として提供している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた意見や情報をサービス向上に活かすよう努めている。	定期的に開催し、事業所の運営や状況を報告し、議事録は事業所に設置しています。また、出席者からの意見を取り入れ、車いすの利用者も安全に外出ができるよう玄関にスロープを設置しています。	運営推進会議の開催案内は家族代表のみに行っていきます。今後は議事録も含め、全家族に送付することで事業所の運営や取り組みについて伝え広く意見を受けることで、運営に取り入れていくことを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議によって情報交換をしている。また市役所への文書送付の際は挨拶、情報交換を兼ねて市役所担当者へ手渡ししている。	市の担当部署との情報交換を密にし事業所の取り組みなどを伝えていきます。また、保健福祉課からの研修案内などがあり、職員の学びの機会としても活用しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が正しく理解しているとは言えないが、身体拘束につながるようなことは細心の注意を払っている。	権利擁護や虐待防止研修に職員が参加し、伝達研修も行っています。利用者の自由な生活と安全確保の取組みについて家族にも説明を行っています。玄関は施錠せずに、チャイムを設置し、出入りを見守っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざれることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部の虐待防止研修会に参加し、虐待についての知識を身につけ、その防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を設けていない。今後必要である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をしているとは言えない。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者へ意見等を表せる機会は特に設けていない。運営推進会議がそのような場になると感じる。意見があれば運営に反映させるよう努めている。	家族の来訪時に話を聞くようにしていますが、より幅広い意見を得るために、食事会など開催を検討しています。意見や要望は運営に反映するように努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員全員ではないが必要に応じて個別に意見を言える場を設けている。また朝の打ち合わせや月に一度の職員会議でも職員全員が意見を話せる場を設けている。	他の事業所に研修や見学に出掛けるなど、職員の知識や経験を増やし、自分なりの意見を持てるようにしています。職員が会議で気軽に意見が言える環境となるよう工夫をしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も毎日勤務しており職員の努力や勤務実績、勤務状況を把握している。職場環境のとしては、資格取得に関して積極的に支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の職員会議内で短時間ではあるが毎度研修を設けてスキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市内の同業者の研修会には交流も兼ね毎度出席している。また市外のグループホーム見学も積極的に行っている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族やご本人の事前面談を通して、ご本人の要望を聞き、今までの生活を極力変えなく新しい生活に慣れていただくよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し要望に沿えるよう努めている。その際ご要望に応えられないことは丁寧に説明し理解を頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在まで他のサービスを必要としている方の相談はないが今後そのようなケースがあれば他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしていきたい。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にできることはしてもらえよう場面の設定をしてはいるが、どうしても支援する側とれる側という関係ではある「共に過ごし、学び、支えよう」といった関係は少ないので努力を要する。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族来所の際、日々の暮らしの出来事や気づきの情報を伝えている。また月に1度生活の様子や健康状態を文書で報告している。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にあった人間関係を尊重し、友人や知人に会いに行くなど積極的な支援を行っている。	利用者が友人・知人を訪問する際には、職員が送迎しています。散歩に出かけた際に馴染みの店に立ち寄るなど、趣味の仲間が訪問してくれるなど継続的な交流を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係について情報連携を毎日している。人間関係が円滑に進めるよう日々注意深く見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方はまだいらっしゃらないが、以前体験入居をされた方のご自宅に訪問し、安否確認または家族の相談を受け付けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、本人の希望や意向の把握に努めており、スタッフ間で共有している。意思疎通の困難な方は家族から情報を得ている。	日々のかかわりの中で利用者の希望や意向は、業務日誌や個人ファイルに記録し職員間で共有しています。会議で訴えの裏側にある本当の気持ちを検討し理解に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には、ご家族や居宅支援事業所の担当者から生活歴や日常の生活スタイルを聞いている。また本人からも聞き取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日常支援の中で、入居者一人一人の生活リズムを把握し、職員で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	頻繁にお会いできる家族には要望を聞き取り介護計画に反映している。職員全体のケア会議を介護計画に反映するようにしている。	利用者ごとの担当職員が、日々の様子を記録し、計画作成者が3カ月ごとにモニタリングを行っています。さらに利用者の意見を反映したものとしていくため、意向把握に力を入れていくことにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一時間ごとのご本人の様子やケアの実践、エピソード等を個別記録に記入している。それらの記録を参考に介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況や希望に応じて、必要な支援は柔軟に対応している。またご家族が宿泊できる体制や備品等を用意している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が充実して地域での生活を続けられるよう地域のイベントなどに積極的に参加し安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。特に希望がない利用者の方には協力医療機関の訪問診療を利用していただきかかりつけ医になって頂いている。また市外への通院も同行している。	かかりつけ医は、本人や家族の希望を反映しています。訪問診療も利用者が選ぶことができます。職員の市外の病院への通院同行も費用負担がありますが可能です。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、体調や些細な表情の変化など見逃さないようにし、早期発見に取り組んでいる。また変化等に気づいたことがあればかかりつけ医に報告し適切な医療につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の支援状況に関する情報を医療機関に提供し、スムーズな看護(医療)へとつなげている。必要に応じて買い物等を行い病院まで届けている。また家族とも回復状況等情報交換をしながら、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化している入居者は、家族の意向を十分に聞き取り、緊急時の対応等、職員全員で共有しながら支援をしている。	今後、家族等と協議し医療連携体制強化に取り組む予定です。来年4月を目途に重度化した場合における対応に係る指針を整備し、利用者の高齢化や病気の進行があっても安心して生活できるよう環境整備を進めていくことになっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開設時に消防署の協力で、応急手当や蘇生術の研修を実施した。新任職員は未実施。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っている。また非常食、非常時飲料水を用意している	年2回、昼夜を想定し消防や住民が参加して避難訓練を行っています。ライフラインが途絶した場合についても、停電など具体的な事例をあげ、対策を検討しています。	避難訓練の外部参加者には建物から外に出た利用者の保護など具体的な役割を伝え、職員にはマニュアルの周知と迅速な避難誘導ができるよう継続的に取り組んでいくことを期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり人格を尊重し敬意を払った声掛けをしているが多々親し気な声掛けになることがある。研修や会議などを通して学んでいきたい。	利用者との意思疎通ができるよう声の大きさやコミュニケーションの工夫をしています。利用者の自己決定とを尊重しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話を通して、本人の思いや希望を表すことができるよう支援している。また押し付けではなく自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	基本的な1日の流れはあるが時間を区切った過ごし方はしていない。その時の本人の気持ちを尊重して、可能な限り個性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の生活習慣に合わせ支援をし、日ごろからも清潔感を損なわないようおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。また近所の理美容院とも連携を取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	春は山菜、秋はきのこなど旬の食材を使った献立や季節行事にちなんだ献立を作って食事を楽しんでいただける工夫をしている。	利用者が下ごしらえなどに参加し、好みの味付けや調理法で献立を提供しています。外食や出前でも利用者が好きなものを選べる工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分摂取量や食事量の記録をしている。また利用者の咀嚼力に合わせた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者一人ひとりに声掛けをし、口腔ケアをしてもらい、自力では不十分な方には職員が介助し習慣になるよう支援している。また、週1度訪問歯科診療を利用し専門的な口腔ケアも実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意がない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。	トイレでの排泄を基本としていますが、開設時にオムツの当て方の研修を行うなど、利用者に合わせて選定ができるようにしています。自立に向け個別に誘導やリハビリパンツの使用などを検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し排便間隔を職員が把握し毎日テレビ体操をし腸の運動をしている。便秘気味の利用者には牛乳やヨーグルトを提供している。またそれでも排便がない場合は看護師が坐薬で対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本的な入浴日は決まっています。見守りだけ必要な方は好きな時間に入浴していただいています。その際利用者に配慮しながら声掛け見守りをしています。	利用者は週2回を基本に、入浴日が決まっています。入浴時間は利用者の希望を尊重しています。安全に配慮したうえで一人で入浴できる場合は希望を尊重し見守りで対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したいときは自室に戻ったり、リビングのソファで横になって頂いたりと自由にいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し誤薬、飲み忘れがないようにしているが、薬の目的や副作用の周知などは十分ではない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内や自室の掃除は日常的に職員と一緒にやっている。一人ひとりの状態に合わせて洗濯物たたみ、食事の準備など生活に張り合いを持てるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員は可能な限り利用者の行きたい場所へ外出できるよう支援している。花見、お祭り、コンサート等四季の行事や各種イベントを企画し外出の機会を設けている。	事業所では、利用者のその時の気分に沿った支援を目指しており、希望により随時買い物や散策など外出に同行しています。お祭りやコンサートなど、イベントへの外出機会も多く設けています。家族との外出機会もあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるが利用者ご本人に金銭管理をしてもらい社会性の維持に取り組んでいる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、手紙やはがきをかけるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は季節感を取り入れるため季節ごとの飾りつけをしたり、お花を飾ったりしている。また特に清潔を保つよう努力している。	食堂、畳敷きの小上がりが一体となった広い居間があり、大型テレビやマッサージチェアなどの娯楽設備も整っています。また、玄関スペースに続くホールなど、利用者が気に入った場所で過ごすことができるようソファなどを設置しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内各所にソファを置き気の合った利用者同士おしゃべりをしたり思い思い過ごしていただける工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンスなど使い慣れた物を使っただけ居心地の良さを感じてもらえるようにしている。また写真やお花を飾るなど居心地良く過ごしていただけるよう支援している。	居室には使い慣れた家具などを配置し、家族の写真や花などを飾り、居心地よく工夫しています。部屋ごとに温湿度計を備え、温度や湿度にも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで手すりが設置している。車椅子の利用者は可能な限り自力で移動し自立した生活ができるよう職員が見守りながら支援している。		